

【水の里の旅コンテスト 2021 応募企画】

【学生部門】 応募者名：青森県立十和田西高等学校

【タイトル】	水の里TOWADA		
【サブタイトル】	～秘められた水の歴史～		
【都道府県名】	青森県	【地域名】	十和田市
【日程】	☒ 日帰り ・ ☐ 1泊2日 ・ ☐ 2泊3日 ・ ☐ その他（ ）		
【実施時期】	☐ 春 ・ ☒ 夏 ・ ☐ 秋 ・ ☐ 冬 ・ ☐ 通年 / （実施時期： ）		
【催行人員】	20名（最小催行員10名）	【お勧めする旅行者層】	歴史や文化に興味がある中高年向け。
【旅行代金】	4,000 円 （大人1名）	【代金内訳】	昼食代 道の駅「レストラン四季」 1,100円 手づくり村 鯉舳郷 ブルーベリー狩り体験 400円 幻の穴堰 大人 500円 バス料金 2,000円
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
南部盛岡藩士・新渡戸傳は、三本木原の不毛の荒野に立ち、後世のために開拓を志した人物です。三本木原開拓に着手、奥入瀬川から水を取り、三本木原に上水する作業を行いました。しかし、途中勘定奉行となり江戸詰めを申しつけられてしまい、代わって嫡子・十次郎が指揮をとり、作業を続けました。そして、ついに約4年の歳月をかけて三本木原への上水に成功しました。そして、太平洋岸までの通水を成功させるため、第二次上水工事が行われましたが、1867年に十次郎が亡くなり、明治維新の混乱もあって計画は未完成に終わりました。そこで、長男・七郎が中心となり三本木原開拓につとめ、大規模な十次郎の第二次上水工事も実現し、現在の稲生川が完成しました。三男・稲造は、父・十次郎が亡き後、母・せきの教育のもとに育ち、一高校長として生徒を教育し、多くの立派な人材を社会に送り出しています。 「水の里TOWADA」は、上記の新渡戸家三代の偉業に想いを馳せ、稲生川を巡ります。ただ見て歩くだけでなく、山中で澄んだ空気を吸い、自然の素晴らしさの中で稲生川の歴史を学ぶというメリットがあるツアーです。稲生川は、自然の世界だけでなく、街中にも農業用水として流れており、素晴らしい自然にぎやかな街中の2つの世界を観光できるスポットです。稲生川では、人工河川のことや、先人の技術についても、たくさん知ることができます。サイフォンのしくみを活用しており、それを見ると、稲生川の面白さが伝わってきます。農業用水・飲み水として多くの恵みをもたらし、青森県南部は有数の穀倉地帯となりました。新渡戸家の偉業がなければ、今の十和田市ではありえません。市民にとって未来に引き継ぎたい重要な遺産といえます。稲生川のスタートポイントである取水口は、140年位前に新渡戸傳が考案、完成させたものです。十和田市内との高低差は30メートル位あり、低いところから高いところへ水を上げるのは至難の業です。熊ノ沢サイフォンは、サイフォンという仕組みを活用し、熊ノ沢川の下に、稲生川が通るという形状になっています。面白い仕組みで流れる川を目の前で見ることができます。幻の穴堰は、新渡戸十次郎が2本目の稲生川の掘削を計画し、志半ばで急逝、未完に終わり、閉鎖されていました。しかし、今から5年前150年の眠りから覚め、現代の私たちがその工事跡を、見学できる歴史体験施設になりました。そこでは、江戸時代にタイムスリップしたような感覚で、見学を楽しむことができます。太素塚は、新渡戸三代のお墓があります。その他開拓功労者の顕彰堂などが整備され、大正14年（1925年）稲造は地域文化向上のため、蔵書など8000点を寄贈して、ここに「新渡戸文庫」を開設しました。「新渡戸記念館」には、開拓に関わる数多くの資料があり、こちらもとても興味深いものが揃っています。今でも、稲生川に初めて水が流れた日を祝い、5月4日には太素祭が開催されています。十和田市が現在のように水の里として潤うまでの歴史を紐解き、開拓に尽力した人々に想いを馳せつつ、利き水大会や、ブルーベリー狩り体験など自然を思いっきり楽しみながら、歴史を学べるツアーを提供いたします。			
【インバウンド対応のための工夫】（※任意）			
本校生徒は、養成講座を受講し、奥入瀬溪流ガイド認定証を取得しております。また、学校独自の「観光英語」という授業で英語のガイドの仕方を学習しています。インバウンド対応のための外国人ガイドの練習として、ALTを対象に英語での奥入瀬溪流ガイドを実施しております。（今年度はコロナの影響により中止）			
【催行実績】	※当該企画が催行されている場合や、催行されている別企画を元に一部変更したものの場合は有に☑してください。 ☒ 有 → いつ催行されましたか：令和3年7月2日（金） ＊観光科3年が2年に対して実施（コロナにより一般観光客対象での実施は断念） ※募集ホームページアドレス（ある場合のみ）： ☐ 無 → 今後の催行予定はありますか： ☒ 有 → いづれ催行予定ですか：来年度同時期に可能であれば ☐ 無		
【特記事項】			

【エントリーシート 別紙】

【 行 程 表 】

1 日目 (日帰り)	・七戸十和田駅（新幹線で来る方へ配慮）から稲生川取水口までバスで移動。 ・稲生川取水口を見学。(30 分) ・熊ノ沢サイフォンを見学。(15 分) ・見学後、幻の穴堰まで移動。 ・幻の穴堰を見学。(90 分) ・道の駅とわだ「とわだぴあ」までバスで移動。 ・道の駅とわだ「とわだぴあ」内「レストラン四季」で昼食。 ・昼食後、自由時間。(昼食タイムと自由時間 合わせて 80 分) ・休憩後、太素塚まで移動。 ・太素塚を見学。(40 分) ・見学後、鯉艸郷まで移動。ブルーベリー狩り体験。 ・体験後、クイズを出題、表彰。 ・クイズ終了後、七戸十和田駅までバスで移動。到着したら解散。
---------------	--

【主な観光ポイント（観光地の歴史、由来、土産物など）】

ポイント 1		【稲生川取水口】 奥入瀬川から稲生川へ取水する水門。稲生川のスタートポイントで、取水口周辺は公園として整備され、開拓に使用された工具のレリーフ等があります。
ポイント 2		【熊ノ沢サイフォン】 奥入瀬川の支流である熊ノ沢川と稲生川の交差部分に熊ノ沢サイフォンがあります。ここで稲生川は熊ノ沢川の下をくぐり、鞍出山へ向かって流れています。
ポイント 3		【幻の穴堰】 新渡戸十次郎の第二次上水計画により慶応2年（1866年）に掘られたトンネル（穴堰）。十次郎が慶応3年に亡くなったため完成していません。内壁には当時の工具による掘り跡などが残っています。
ポイント 4		【道の駅とわだ とわだぴあ レストラン四季】 とことん十和田にこだわった地産地消レストラン。道の駅「とわだぴあ」の施設内にあり、青森の郷土料理や新鮮な地場産品活用した創作料理を堪能できます。気に入った料理の材料である野菜やお肉は、道の駅で購入することができ、ご自宅で楽しむ事もできます。

ポイント5	 	【太素塚】 三本木原に人工河川・稲生川を上水し、碁盤の目状の都市計画を行った新渡戸三代（傳・十次郎・七郎）をはじめとする開拓精神を受け継ぎ世界で活躍した新渡戸稲造博士（十次郎の三男）をまつる墓所です。「太素塚」敷地内にある「新渡戸記念館」では、数多くの興味深い資料を見ることができます。
ポイント6	 	【手づくり村 鯉艸郷】 昭和63年より花菖蒲園を開園し、その後、ルピナス・芍薬・山野草園を増設、自然を感じながら、食事や体験等ができるフラワーガーデンとして整備してきました。鯉艸郷の「鯉」は園内の池にいる「こい」、「艸」は「くさ」で園内の草花、「郷」は「さと」で理想の郷、ユートピアにしたいという願いが込められています。

ガイドの様子

取水口 ガイド中



サイフォン 説明中



幻の穴堰 説明中



道の駅とわだ ガイド中



道の駅商品 説明中



太素塚でクイズ出題中

